

教育委員会等連携検討委員会(第3回)の議事概要について

- 1 日 時 平成23年3月25日(土) 14時～17時
- 2 場 所 キャンパス・イノベーションセンター大阪 402号室
- 3 出席者 篠原座長, 玉井, 坂野, 山崎, 大野の各委員(入澤, 岩永委員は欠席)
〔陪席: 協会事務局/米田事務局長, 岩佐, 西村〕

4 議事概要

米田事務局長の挨拶のあと、審議に先立ち、事務局から平成23年度教職大学院シンポジウムを12月11日(日)に学術総合センターで実施する予定であることの説明が行われた。ついては、当委員会としてシンポジウムで成果発表を行う企画について、今後審議を進めることが提案された。

引き続き、篠原座長から前回(第2回)検討委員会の検討内容等について確認が行われた。

(1) 教職大学院と教育委員会等との連携に関するアンケート調査の実施について

① 篠原座長より、事前に委員にメール送信をしていた「教職大学院と教育委員会等との連携に関するアンケート」の原案につて、以下のように審議経過の確認及び、今後の予定について説明が行われた。

- ・今年度の委員会では、教育委員会等との連携の方法論、モデルを作成しアウトプットにしたいと考えている。
- ・体系に基づく連携モデルをつくって、全教職大学院に結果を提供したい。
- ・第1回会議ではアンケートの体系案作りを行った。(本委員会構成8大学院の現状の把握と、足りない項目が無いかチェックを行った。)
- ・第2回会議ではアンケート内容や項目の詳細を検討した。(項目について大学院毎に濃淡があることがわかった。教育委員会「等」にあるように、教育委員会だけでなく連携協力校との組織的連携も課題であることもわかった。また、文部科学省も連携先といえる。そのため本委員会にアドバイザーとして教育委員会関係者、文部科学省からも入ってもらった。)
- ・本年12月予定のシンポジウムに向けては、やはり25校の実態を調べてまとめたい。それに向けて「教職大学院と教育委員会等との連携に関するアンケート」の原案を作成したところである。

② 経緯説明に引き続き、アンケートの原案について、各設問について細かく議論が行われた。

(2) その他

①教職大学院シンポジウムの企画案について

次の構造のものを原案とする。

- ・趣旨と経緯を説明する . . . (篠原座長)
- ・アンケート結果の集計・分析を行う . . . (大野委員)
- ・事例の実践報告を行う

→どの事例を報告対象とするか。

- ・アンケートで特徴的なところがよいのでは。
- ・課題があるところも入ってもら方がよいのでは。
- ・学校－教委の距離にバリエーションをもたせてもよいのでは。

→誰が報告を行うのか。

- ・本委員会の委員が引き受けるべきと考えている。
- ・事例実践報告の原案は以下のとおり
静岡県教育委員会 － 国立大学 ……(山崎委員)
東京都教育委員会 － 私立大学 ……(坂野委員)
岐阜県教育委員会 － 国立大学 ……(篠原座頭)
- ・アドバイザーの早川氏に指定討論をお願いするのはどうか。
最初に重心を出してもらえば興味深くなる。

→シンポジウム全体像はどのようなスタイルか

- ・会場の都合も含めて、事務局サイドとしての全体像の案は出来つつある。
- ・全プログラムとも参加者が一律にただ聴く形にする必要があるのか。
- ・分科会方式などを検討してもよいのでは？

→その他

- ・文部科学省はこれまで行った各調査の結果を還元して欲しい。

- ② 次回の委員会は、5月27日開催の日本教職大学院協会総会の前後の日程で調整することが了承された。